

健康福祉サービス第三者評価結果 公表 共通様式

1 事業者情報

福祉サービスの種別	保育
事業所名	水口北保育園
代表者氏名（管理者）	園長 関屋友里
法人名	社会福祉法人 ひまわり会
定員（利用人数）	200名
施設・事業所所在地	滋賀県甲賀市水口町松尾1211番地
T E L	0748-62-1085
F A X	0748-63-8617
電子メール	himawari2@silk.ocn.ne.jp
ホームページアドレス	https://minakuchikita-hoikuen.jimdofree.com/

2 第三者評価機関

第三者評価機関名	公益社団法人 滋賀県社会福祉士会
評価実施期間	2023年（令和5年）11月28日・12月7日

3 評価の概要

○ 総合評価

水口北保育園は社会福祉法人ひまわり会の2つ目の事業所として2004年に甲賀市水口町松尾に開園され、2024年は創立20周年を迎えます。園は自然豊かな水口丘陵に広がる閑静な住宅地の一角に位置しています。広大な敷地には中庭のある園舎、広い園庭、駐車場を備えています。都市部の園でよくみられるような近隣住民からの子どもの声に対する苦情や、送迎時の車の混雑を懸念するといった声もなく恵まれた環境の中にあります。

保育理念は「子どもの最善の利益を守り、心身共に健やかに育つように努める」と定め、理念の実現のために4つの基本方針と7つの保育目標を定めています。水口北保育園も開園当初は他の保育園と同じように一斉保育を行っていましたが、現在は子どものやりたいこと、やってみようという気持ちを大切にする保育を行っています。本年11月には保育実践を語る会「土曜の会」による先進園視察があり、近隣府県から多数の視察者が訪れました。子どもの主体性を大切にする保育の実践は、一部の保護者からは新一年生になった時のギャップを心配する等様々な意見が寄せられます。ですが大半の保護者は子どもが喜んで通いのびのびと遊ぶ明るい雰囲気は、水口北保育園の最大の特徴であると好意的に捉えています。子どもも一人の人間であり人としての一生を考えた時、主体的に生きる力が身につけている事はこの上なく大きな財産であり、保育理念に定める最善の利益と言えます。

社会が変化するスピードは益々速くなり、子どもを取り巻く環境も刻々と変化しています。園長はじめ職員は既成概念にとらわれず変化を見過ごすことなく柔軟に対応し、子どもにとって何が大切かを常に考え行動しています。子どもたちが大きくなった時、水口北保育園に通っていてよかったと思えるような、一生の記憶に残る園になる事を期待いたします。

○ 特に評価の高い点

(1) 子どもの主体性を重視した保育

水口北保育園では保育士が号令をかけ、子どもたちが一斉に同じことを始めるといった保育を行っていません。そのため子どもたちは思い思いの事を始めるので多くのスペースが必要になってきます。保育室の中はパーティションで仕切られていますが、年長になるにつれてパーティションの高さは低くなり数も減ってきます。子どもたちの中で協調性、思いやり、仲間意識などの大きな変化が起こっていることは、年少から年長にかけて保育室を順に見ていくと良くわかります。

(2) 里山元気会の活用

園から子どもの足で約40分歩いたところにNPO法人里山元気会の里山があります。5歳児が年3回行くことを楽しみにしています。里山にはザリガニ釣りができる池、手作りのロープウェイやブランコなどの自然を利用した遊び道具がたくさんあります。子どもたちはお弁当を持って行き一日を過ごします。園には里山で集めてきた葉っぱ、どんぐり、松ぼっくりなどを使ってワクワクした様子が立体制作で再現されています。冒険、探検、自然と親しむといった事は子どもにとってとても大切な出来事です。子どもたちは水口北保育園でしか出来ない貴重な体験をしています。

(3) 常勤看護師の配置

常勤の看護師は毎日子どもの健康をチェックするとともに、保育室の温度・湿度管理等の環境面からも子どもを支えています。けがや病気にも素早く対応でき、小さな異変を見逃すこともありません。看護師としての専門的な立場から、子どもの保健に関し保護者と情報共有を行っています。7つの保育目標のうち「心身共にたくましい子に育てる」「いのちを大切にする子に育てる」は保健具体目標にもなっています。子どもがからだについて知り、自分の身は自分で守れるようになることに看護師は重要な役割を果たしています。

(4) 自園給食の実施

給食は栄養士の管理のもと、園で調理した給食を提供しています。菜園で野菜の種を蒔き収穫し、採れた野菜の皮をむいたり葉っぱをちぎったり下処理をする等、食に興味を持つように工夫されています。また季節の行事に合わせた食事や地域の特産物を使った食事で食文化を知ることが出来ます。アレルギーを持つ子どもへの対応もしっかりと行われています。ランチルームでは座席は決まっておらず、子どもたちは思い思いの時間から食べ始め、自分のペースで食事をしています。給食の時間においても子どもの主体性は重視されています。

(5) 業務支援ツール・コドモンの導入

園ではICTシステム・コドモンを導入しています。登降園の把握が確実に行え、園から保護者への連絡、保護者からの欠席連絡等に活用しています。ドキュメンテーションで日々の子どもの活動を保護者へ配信しています。保護者からは一言添えて送られてくる写真は子どもの様子が良く分かると好評で、写真を購入できるシステムも喜ばれています。コドモンの導入は保育士にとっては事務の効率化が図れ、子どもと向き合う時間が最大化されるので心にゆとりが生まれ保育に専念できます。

(6) 未就園児交流の実施

地域活動として年間10回、未就園児や保護者同士の交流の場を提供しています。参加者からは子育てに関して様々な相談があります。相談に対して的確な情報を提供し、親子の関わりのきっかけを作っています。子育てに対するする悩みの相談はしっかりと受け止めています。前園長も保育アドバイザーとして参加して、水口北保育園を地域の人々に知ってもらう良い機会となっています。

(7) 働きやすい良好な職場環境

育児休暇は最長3年間取得できることから子育てがしやすく、勤続10年以上の職員も多数在籍しています。職員が有給休暇を取る際にはみんなでカバーして助け合うといった意識が浸透しており、園長を中心にチームワークのよく取れた職場です。研修は大学教授を定期的に招いて行っています。さらにプライベートゾーンに関する事やジェンダー等の時代に即した内容も勉強しています。職員は保育の仕事に誇りを持ち自身の将来像を描いています。水口北保育園は保育という仕事を通じて自己実現が可能な職場です。

○ 改善を求められる点

(1) 保護者とのコミュニケーションの強化

評価機関が保護者に対して行ったアンケートの結果からは、いくつかの項目で園の施策に対する評価が低いという結果が出ています。園としては施策を行っているものの、保護者に成果が十分伝わっていない可能性があります。園ではアプリを使って情報共有を図っています。アプリは効果的な手段ですが、感情までは十分に伝えることが出来ません。情報ツールと並行して保護者と直接出会う機会には、十分意思疎通を図る工夫が大切です。コミュニケーションの基本は直接会ってよく話すことに尽きると思います。

(2) 中長期計画の明文化

園では綿密な単年度計画が策定され実行に移されています。しかしながら中長期的な展望は青写真としては描かれていますが明文化されたものではありません。事業計画としてはやはり文書で計画を示すことが必要と思われます。長期的な展望に立った中長期計画を策定するにあたっては、まず3年後に達成したい目標を定め、その目標を基に毎年のステップを設定します。1年ごとに検証を繰り返しながら3年後に総括を行います。3年を1期とする中期計画を策定し、第1期中期3カ年計画、第2期中期3カ年計画と反復継続していく方法は、事業を運営するに当たっては有効な方法と言えます。

4 第三者評価結果に対する事業者のコメント

当園では、この数年、外部講師の力を借りながら保育内容の見直しに取り組んできました。今回の第三者評価において、見直した保育内容について高い評価をいただいたことは悩みながら取り組んできた職員にとっても自信につながるものと嬉しく思っています。高評価をいただいた他の項目と共に良い部分は大切にしながら、引き続きより良い保育を提供できるように努力していきます。

一方、改善を求められる点として二項目のご指摘をいただいています。なかなかこれまで手が回っていなかった部分ではありますが、どちらもとても大切なことだと今回の第三者評価の受審で認識することができました。このご指摘を良いきっかけにして改善に努めていきます。

今後も子どもたち、保護者のみなさま、地域のみなさま、職員、一人ひとりを大事にできる保育園になれるよう努力します。

5 評価項目毎の評価結果

(別 添)